ジャガイモシストセンチュウのまん延防止について

ジャガイモシストセンチュウは，一昨年，本州では青森県下で初めて発生が確認され，さらに北海道の主要馬鈴しょ産地の十勝地方でも発生が確認されるなど，近年まん延が懸念される害虫です。

本線虫の被害が大きくなると，株全体がしおれるなどして収量が大幅に減少することがあります。土壌中では,卵はシストと呼ばれる袋で保護されており,２０年以上生存することが可能であるため,一旦発生するとその撲滅は困難です。

農林水産省消費・安全局植物防疫課では，本線虫の被害・まん延を未然に防止するため，平成１６年１月各都県に通知し，植物防疫法に基づく検査に合格した健全な種馬鈴しょの使用と，早期発見への協力を呼びかけています。

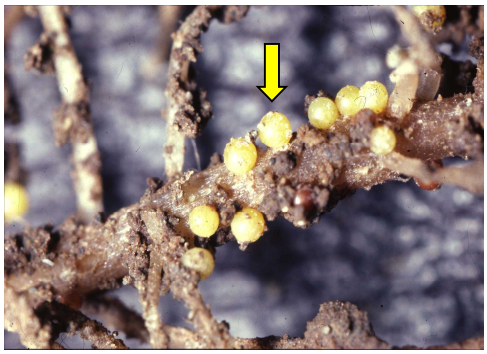
１　**種イモは，合格証票が添付されているものを使用し，食用のものは線虫が付着している恐れがあるので絶対に使用しないで下さい。**

２　本県ではまだ発生を確認していませんが，馬鈴しょに**疑わしい症状が認められる場合には，病害虫防除所へ連絡**されるようお願い致します。
　→ＴＥＬ　０２９－２２７－２４４５

＜ジャガイモの被害の様子＞

症状：株全体のしおれと下葉の枯死

＜センチュウ寄生の様子＞



ジャガイモの根に寄生した雌成虫
（開花期頃）　径０．６mm内外

ジャガイモシストセンチュウについて

学　　名：*Globodera rostochiensis* (Woll.) Behrens
発 生 地 域：南北アメリカ，ヨーロッパ，ロシア等。日本では昭和４７年に北海道，平成４年に長崎県，平成１５年に青森県で発生が確認されている。
寄 主 植 物：ジャガイモ，ナス等のナス科植物
被害の特徴：多数の寄生を受けると地下部の生育不良により，株全体が黄化萎縮して収量が大幅に減少する。
生　　態：本種は，幼虫が根に侵入し，栄養を摂取しながら成長する。雌成虫は根の表面に寄生し，初め白色でその後黄色となり，死亡してシスト（包のう）をつくる。１シストは数百個の卵を包含し，土壌中では２０年以上の生存が可能である。
予防と防除：発生地ではジャガイモなどの寄主植物の作付禁止。あるいは作付制限。
食用ジャガイモは絶対に種イモに使用しない。
５年以上の輪作。補助手段としては，Ｄ－Ｄ剤，オキサミル剤による薬剤処理がある。

茨城県病害虫防除所
病害虫発生予報２月号（平成 17 年）より抜粋